

2-3- 高潮や津波の被害と隣り合わせの首都東京

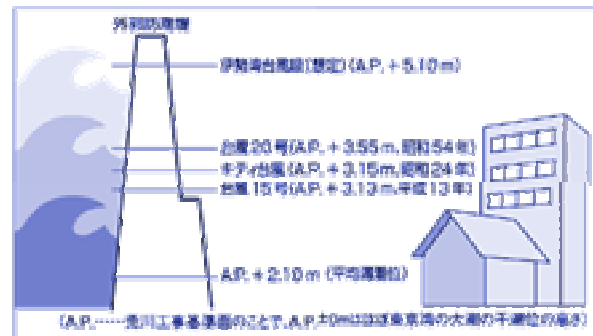
地下水の過剰揚水による地盤沈下により、現在、東京港の海岸線の背後には、いわゆるゼロメートル地帯を中心とする低地帯が広がっています。ゼロメートル地帯の面積は約124平方キロメートル、23区の約20%に相当します。伊勢湾台風級の超大型台風の場合に予想される高潮の潮位以下の地域も合わせると約255平方キロメートル、23区の約41%にも及びます。このため東京は、台風や地震時はもちろん、日常的な高潮防災が不可欠となっています。



(出典:WEB広報東京都 平成16年2月号)

平成13年の台風15号が東京を通過した際は、満潮と重なったこともあり、辰巳水門で干潮面上3.13mと通常の高潮時より1m以上も高く、高潮による浸水被害の危険がありました。このため、19の全水門と26の陸こうを閉め、排水機場のポンプにより内水を外部に排除して、被害の発生を未然に防ぎました。

東京湾における過去の高潮



辰巳水門

